

# いじめているきみへ

2025.6.16 校長 西谷 秀幸

皆さんは、「いじめ」というと、どんなことを思い浮かべますか。無視、仲間はずれ、かげで悪口を言う、手紙やメールで悪口をまわす…。相手の気持ちも考えずに、そんなことを言ったり、やったりしたことはありませんか。

「死ね」とか「消えろ」とか言ったり、「○○菌」などとからかったりしたことはありませんか。反対に、そういうことをされたことはありませんか。

先週の朝会では、「わたしのせいじゃない」という絵本を読み聞かせしました。皆さんは、この話を聞いて、どんな風に思ったのでしょうか。みんなで知らんぷりをしたり、「みんながやったからやったんだ…」とか「ちょっとしかやっていないよ…」などと言いついたり、「あの子が変わだから悪いんだ…」などと、人のせいにしたりしていませんか。本当に「わたしのせいじゃない」のでしょうか。

今日は皆さんに、もう一度、いじめについて考えてもらうため、「いじめているきみへ」という絵本を読みます。(スライドで読み聞かせをする。)

いじめているきみへ		春名 風花
いまから かく ことばは きみには とどかない かもしれない いじめているこは じぶんのこと いじめっこだなんて おもわないから	そうぞう してください きみが あざわらったこが はじめて たったひ	
あそんでいる だけ なんだよね じぶんより よわい おもちやで	はじめて あるいたひ はじめて わらったひ	
いじめられているこが ひとりぼっちで しんでも いじめたこは わらって ごはんを たべる	うれしくて ないたり わらったりした ひとたちの すがたを	
きえる ぶす きもい しねば いいのに	きみが きもい うざいと おもった ひとを せかいじゅうの だれよりも あいしている ひとたちの すがたを	
かなしくて はずかしくて いきが できなくなつて	そして おなじように きみを そだててきた ひとたちが いじめている きみを みて どう おもうのか	
いじめられているこが くるしんで ないて しんでも また ほかのこで いじめは つづく	そのひとたちの えがおは きみの ちっぽけな たのしみと ひきかえに うしなっても いいものなのか	
あのね ぼくがうまれたひ おとうさんと おかあさんは うれしくて すごく ないたんだって	すこしだけ そうぞう してください	
いのちに かえても まもりたいねって ちいさくて かわいくて ほんとうに しあわせ だったんだって		

皆さんのまわりには「あれ？それって、もしかしたらいじめじゃない？」と思うようなことはありませんか。

いじめた人は、「ふざけていた」とか「いじめているつもりはなかった」などと言って、自分は「いじめ」をしていることに気が付いていないことがあります。だから、まわりの人が教えてあげなければなりません。また「いじめ」は、いじめられた人だけでなく、おとうさんやおかあさん、そして、いじめた人の家族さえも傷付けてしまいます。それを皆さんも想像してください。

いじめをなくすには、「自分は関係ない…」「みんながやっているから…」とか、そういうのはダメです。いじめをなくすにはどうしたらいいか、また、みんなが楽しい仲良しなクラスにするにはどうしたらいいか、それぞれのクラスで真剣に話し合ってもらいたいと思います。そして、できれば感想を書いて読ませてください。

これで朝会のお話を終わります。

(裏面に「先生方へ」があります)

## 〈先生方へ〉

先週もお伝えしましたが、6月は、東京都教育委員会が定める「ふれあい月間」（6月・11月・2月）です。いわゆる「いじめ」を防止して、児童・生徒の健全な人間関係をつくる月ということです。ちなみに、いじめの定義は以下のようになります。

当該児童・生徒が、一定の人間関係のある者から心理的・物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む）を受けたことにより、心身の苦痛を感じているもの

1学期も後半に入り、子供たちが新しい学年、新しいクラスに慣れてくるとともに残念ながら子供たち同士のトラブルも増えてきています。

そこで、先週の「わたしのせいじゃない」に引き続いて、今週は「いじめているきみへ」という絵本を読み聞かせることにしました。これは、2012年に朝日新聞で特集された「いじめと君」に当時6年生のタレント春名風花さんが寄せた記事が絵本化されたものです。できれば、子供たちがどう感じたのか、ぜひ感想を書かせて読ませていただけたらうれしいです。

「いじめ」は、「机を離す」「靴を隠す」「はやしたてる」「無視する」などの兆候（＝「いじめの芽」）の段階でいかに摘み取れるかが重要です。児童へのアンケートを含め、学級ごとに「いじめ」を未然防止するための取組を進めてください。

特に、中休みや昼休みの様子を見ておきましょう。一人ぼっちの子、二人ぼっちの子などがいないかどうかを確かめることも大切です。そして、「いじめの兆候」があったときは、担任一人で抱え込まず、養護教諭やスクールカウンセラー、学年主任や管理職などに相談してください。「いじめ防止対策委員会」を中心に学校全体で組織的に対応していきましょう。よろしくお願ひします。（以下、春名さんが寄稿した記事です）

### 【資料】 いじめているきみへ 春名 風花

君、想像したことある？

ぼくは小学6年生です。タレントだけど、ふつうの女の子です。

今から書く言葉は君には届かないかもしれない。だって、いじめてる子は、自分がいじめっ子だなんて思っていないから。

いじめがばれた時、いじめっ子が口をそろえて「じぶんはいじめてない」って言うのは、大人が言う保身（ほしん）のためだけじゃなく、その子の正直な気持ちじゃないかなと思います。

ただ遊んでいるだけなんだよね。自分より弱いおもちゃで。相手を人間だと思ってたら、いじめなんてできないよね。感情のおもむくままに、醜悪（しゅうあく）なゲームで遊んでいるんだもんね。

ぼくもツイッターでよく死ねとか消えろとかブスとかウザいとか言われます。顔が見えないから体は傷つかないけど、匿名（とくめい）なぶん、言葉のナイフは鋭（すど）いです。

ぼくだけでなく、時には家族を傷つけられることもある。涙が出ないくらい苦しくて、死にたくなる日もあります。

けれどぼくは、ぼくがいくら泣こうが、本当に自殺しようが、その人たちが何も感じないことを知っている。いじめられた子が苦しんで、泣いて、死んでも、いじめた子は変わらず明日も笑ってご飯を食べる。いじめは、いじめた人には「どうでもいいこと」なんです。

いじめを止めるのは、残念ながらいじめられた子の死ではありません。その子が死んでも、また他の子でいじめは続く。いじめは、いじめる子に想像力（そうぞうりよく）を持ってもらうことでしか止まらない。

いじめゲームをしている君へ。

あのね。キモい死ねと連日ネットで言われるぼくが生まれた日、パパとママはうれしくて、命にかえても守りたいと思って、ぼくがかわいくて、すごく泣いたらしいですよ。この子に出会うために生きてきたんだって思えるくらい幸せだったんだって。それは、ぼくが生意気（なまいき）になった今でも変わらないそうですよ。

想像してください。君があざ笑った子がはじめて立った日、はじめて歩いた日、はじめて笑った日、うれしくて泣いたり笑ったりした人たちの姿を。君がキモいウザいと思っただけの人を、世界中の誰（だれ）よりも、じぶんの命にかえても愛している人たちのことを。そして、その人たちと同じように笑ったり泣いたりして君を育ててきた、君のお父さんやお母さんが、今の君を見てどう思うのか。

それは、君のちっぽけな優越感（ゆうえつかん）と引き換えに失ってもいいものなのか。いま一度、考えてみてください。（はるな・ふうか＝タレント）

2012年08月16日 <http://www.asahi.com/special/ijime/TKY201208160557.html>